

令和元年度
ふるさと島根寄附金活用事業成果報告書
～平成30年度寄附金を活用した事業の成果～

(問い合わせ先)

〒690-8501 松江市殿町1番地

島根県政策企画監室

電話番号：0852-22-6063

FAX番号：0852-22-6034

電子メール：kifu@pref.shimane.lg.jp

～目 次～

1	活用成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	- 1 -
2	寄附金を活用して実施した事業の成果・・・・・・・・	- 2 -
	（1）産業の振興に関する事業・・・・・・・・	- 2 -
	（2）自然環境の保全に関する事業・・・・・・・・	- 7 -
	（3）医療・福祉の充実に関する事業・・・・・・・・	- 9 -
	（4）教育・文化の振興に関する事業・・・・・・・・	- 11 -
	（5）子どもの読書活動の促進に関する事業・・・・・・・・	- 13 -
	（6）竹島の領土権の確立に関する事業・・・・・・・・	- 15 -
	（7）森林の保全及び整備に関する事業・・・・・・・・	- 16 -
	（8）防災対策の推進に関する事業・・・・・・・・	- 17 -
	（9）結婚・出産・子育ての支援に関する事業・・・・・・・・	- 19 -

1 活用成果の概要

平成30年度は1,819件、31,380,205円の寄附をいただきました。

いただいた寄附は、ふるさと島根基金に積立て、次のとおり平成31年度の事業に一部を活用させていただきました。

寄 附 メニュー	寄附を活用した 事業費（円）	平成30年度 寄附額（円）
産業の振興	50,359,479	5,695,000
自然環境の保全	6,358,836	2,845,800
医療・福祉の充実	3,438,000	2,888,000
教育・文化の振興	2,347,000	2,135,000
子どもの 読書活動の促進	2,183,000	2,219,000
竹島の領土権の確立	9,154,873	4,331,905
森林の保全及び整備	4,085,173	925,500
防災対策の推進	907,000	990,000
移住及び定住の促進	-	※670,000
結婚・出産・子育て の支援	1,110,550	※ 2,790,000
事業の指定なし	-	※ 5,890,000
合計	79,943,911	31,380,205

※「移住及び定住の促進」分は、「産業の振興」の事業と併せて活用させていただきました。

※「結婚・出産・子育ての支援」分の一部は、「医療・福祉の充実」の事業と併せて活用させていただきました。

※「事業の指定なし」分は、「産業の振興」に配分して活用させていただきました。

2 寄附金を活用して実施した事業の成果

(1) 産業の振興に関する事業

【対象事業】

- ① 地域 IT 人材育成強化支援事業
- ② 島根県グローバル人材育成支援事業
- ③ 出雲コーチン種生産対策事業

【事業の成果及び事業費】

- ① 地域 IT 人材育成強化支援事業

将来の島根県のIT産業を担う人材を育成するため、県内各地域のIT産業が求める人材ニーズに沿って、県内IT企業と専門高校等が連携したモデル授業を行いました。また、島根大学、松江高専などの高等教育機関では高度IT人材育成を目的とした実践的な講座を実施しました。

事業費：38,175千円

(1) 専門高校等の生徒を対象としたIT人材育成モデル授業

i) 出雲商業高等学校

- ・情報処理科3年生から選抜された11名を対象に、校内における課題解決のためのシステムやアプリを開発する授業を行いました
- ・地元企業による指導のもと、生徒は3チームに分かれて開発を進め、2月の最終発表会で各チームが開発したシステムを発表しました
- ・うち1チームが松江オープンソース活用ビジネスプランコンテストで学生部門優秀賞を受賞しました



授業の様子



最終発表会の様子

ii) 松江商業高等学校

- 情報処理科3年生40名を対象に校内の図書室で利用するシステムを開発する授業を行いました
- 地元企業の指導のもと、生徒はシステムの機能ごとの班に分かれて開発を行い、1月の最終発表会で開発したシステムを発表しました

iii) 情報科学高等学校

- 情報システム科2年生40名、3年生12名を対象にセンサーネットワーク及び自動制御、プログラミング等に係る技術を習得する授業を行いました
- 学習したロボットプログラミングの内容をもとに小中学生向けの講座を企画し、教材準備及び当日の運営を行いました
- 地元企業・団体の課題解決を目的とした企画・提案を行い、システム・アプリの開発、効果検証を行いました

iv) 浜田商業高等学校

- 情報処理科3年生38名を対象に身近な課題をITで解決するビジネスモデルの発案と基礎的な技術を習得する授業を行いました。
- 地元企業の指導のもと、生徒は10チームに分かれて地域や身の回りの課題を題材に、問題設定及びアイデア発案、仮説・検証を通じてITを利用したビジネスモデルを作成し、1月の最終発表会でプレゼンを行いました

v) 隠岐高等学校

- 商業科3年生23名を対象に地元企業の指導のもと、隠岐を活かしたオリジナルLINEスタンプを作成しました
- 7月の成果発表会では、6チームがそれぞれ作成したLINEスタンプのプレゼンを行いました
- 作成したLINEスタンプのうち「隠岐男」スタンプを地元の協力を得て販売しました

vi) 邇摩高等学校

- 総合学科2、3年生15名が受講し、3名1組のチームに分かれて地域課題の発見及びITを利用した解決方法の提案を行いました
- 地元企業及び外部講師の指導のもとで実施した3日間の授業の最終日には発案したビジネスアイデアのプレゼンを行いました

(2) 島根大学「高度IT人材育成事業」

- 総合理工学部知能情報デザイン学科2、3年生70名を対象に、地元IT企業と共同でITを利用して地域課題を解決する実践的な講座を行いました
- 受講した学生は教官や企業の指導のもと高度な開発技術を習得し、県

内企業への理解も深めました

- ・12月の最終発表会では、企業と共同で作成したビジネスモデルのプレゼンを行いました

(3) 松江工業高等専門学校「デザイン思考を活用した企画講義」

- ・情報工学科1、2、3年生6名を対象に、デザイン思考を活用したサービス開発・ビジネス化の基礎を習得する講座を行いました
- ・講師は専門性の高い知識、技術が求められるため、県外から招聘しました

(4) 学校法人斐川コア学園

- ・情報システム科1、2年生10名を対象に、センサーネットワーク及び自動制御、遠隔計測、チャットボットの開発技術を習得する講座を行いました
- ・地元IT企業の協力のもとで出場したETロボコン2019中四国地区大会で県勢初の総合優勝を果たしました

② 島根県グローバル人材育成支援事業

島根県内企業でのインターンシップと海外留学を通じて、卒業後、県内産業・地域活性化に貢献するグローバルな人材を育成し、県内への定着を図ることを目的として、応募者のうちから県内外の高等教育機関に通う4名の学生（島根大学2名、松江高専生2名）を選定し派遣を行いました。

事業費：8,293千円

留学生活動実績

No	高等教育機関名	留学先	目的
1	島根大	ポーランド	『地方でも元気なポーランドの小さな街で、これからのまちづくりを学ぶ』
2	島根大	フランス	『農業大国フランスから学ぶ、農作物ブランド化の秘訣と地域戦略』
3	松江高専	ドイツ	『世界で通用する研究者になるための第一歩 ―世界最高峰の研究所での研究―』
4	松江高専	シンガポール	『ICT先進国シンガポールで「IoT×スマートシティ×観光」の可能性を探り、島根県を訪れる外国人を増やす！』



令和元年度留学生
知事表敬訪問時の様子

③出雲コーチン種生産対策事業

大正から昭和にかけて島根県内で飼育され絶滅危機にあった「出雲コーチン」の原種保存と特産化に向けた生産振興を図ります。

事業費：3,893千円

生産者、JA、出雲市、出雲農林高校、島根県畜産技術センターを構成組織とする「出雲コーチン利用促進協議会」を設立し、原種保存・ブランド化の取組みを開始しました。

(1)「出雲コーチン原種」の飼育

- 「出雲コーチン原種」の有精卵を島根県畜産技術センターに設置した孵卵器で孵化させました
- 現在、19羽飼育していますが、次年度以降は、6～7羽を1群として、飼育予定です

(2) 発育・表現型調査

- 「出雲コーチン原種」の発育調査を実施した結果、最も良い発育個体の100日齢体重が2000gに達していなかったため、今後、肉量を確保するための改良が課題です
- 表現型については、羽色は茶色が主体で、尾に黒色が混じる個体が多く、脚色には、多少バラツキが見られるものの、当該雌群は、斉一性が高いことが分かりました

(3)官能評価の実施

- 「出雲コーチン」に「名古屋コーチン」を交配した地鶏肉（むね、もも）と「プロイラー」の鶏肉（むね、もも）を加熱調理し、官能評価を行いました

(4)「出雲コーチン原種」の配布

- 「出雲コーチン原種」保存の危険分散を図るため、飼育を希望する2名に5羽ずつ10羽を配布しました

(R2.2.1日本農業新聞に掲載)

(2) 自然環境の保全に関する事業

【対象事業名】

宍道湖・中海賢明利用推進事業

【事業の成果・事業費】

自然豊かな宍道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高め、ラムサール条約の柱である、保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境教育、交流、普及啓発の事業を実施しました。

事業費：6,359千円

(1) 水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業

i) 湖沼環境モニター調査

周辺住民の参加により人の五感で宍道湖・中海の評価を行う「湖沼環境モニター」事業を実施しました。（モニター数 64名、3団体）

ii) 宍道湖・中海流入河川調査

小中学生を対象とした流入河川調査では、流入河川の水質調査だけでなく、学校独自の調査も実施し、学習発表会やポスター作成など優秀な取り組みを行った学校を表彰しました。（参加団体 32）



水質調査



学習発表会

(2) ラムサール・大型水鳥啓発事業

i) 子ども交流会

両湖で活動するこどもたちと愛知県名古屋市の湿地で活動するこどもたちによる水鳥を主なテーマとした交流会を鳥取県と共同で開催しました。

（こども交流会参加者約20名）

ii) 中海・宍道湖一斉清掃

6月9日に沿岸市の各会場で一斉清掃活動を行い、湖周辺のゴミを収集しました。（参加者6,665人、収集ゴミ12.07トン）

iii) 普及啓発

宍道湖・中海とラムサール条約の紹介及び大型水鳥の情報を新聞掲載し、周知を図りました。



子ども交流会



中海・宍道湖一斉清掃

(3) 医療・福祉の充実に関する事業

【対象事業】

- ① がん患者社会生活応援事業
- ② 発達障がい支援体制整備事業
- ③ 障がい者施策支援事業（ヘルプマーク普及事業）

【事業の成果及び事業費】

①がん患者社会生活応援事業

がん治療によって乳房切除や脱毛などを余儀なくされた患者さんに対し、補正下着及び医療用ウィッグの購入費を助成することで外見変化に関する悩みを軽減し、社会生活参加を促す取組を行いました。

事業費：1,453千円

- ・昨年度比19件増の77件の補助を実施しました
- ・島根県のホームページや県内のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターなどで広報を行い、幅広い年代にご活用いただきました
- ・助成を受けられた方からは、「この事業があってありがたい」「母の表情が明るくなった」などのご感想をいただいております

【内訳等】

〈件数〉77件（ウィッグ69件、下着補正8件）

〈補助額〉1,387千円

※2万円を上限とし、購入金額の1/2を助成

②発達障がい支援体制整備事業

発達障がいの理解促進と、支援が必要な人が支援機関につながることを目的としたパンフレットを作成しました。

医療・教育・福祉・警察・労働等関係機関へ配布するとともに、発達障害者支援センター及び島根県による広報啓発で活用します。

事業費：550千円

「発達障がいを正しく理解しよう」パンフレット

（A3二つ折り4ページ）

作成部数：35,000部



「発達障がい を 正しく理解しよう」パンフレット

③障がい者施策支援事業（ヘルプマーク普及事業）

外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるための「ヘルプマーク」の普及を図り、必要とされる方に交付しました。

事業費：1,435千円

- 市町村や公共施設等に掲示するチラシを作成し、ヘルプマークの周知を図りました
- 2020年にパラリンピックの開催が予定されていたことから、英字版のポスターを作成しました
- 障がいの特性や必要な配慮を学び実践する「あいサポート運動」の、研修用DVDにヘルプマークの意味や必要な援助を盛り込み、ヘルプマークへの理解を促進しました

ヘルプマーク交付数 705枚
 あいサポート研修回数 153回



英字版ポスター

(4) 教育・文化の振興に関する事業

【対象事業】

島根県立美術館「島根ゆかりの美術」調査研究及び普及啓発事業

【事業の成果及び事業費】

島根県ゆかりの美術を広く紹介し、子ども達等に「島根の宝」として継承する意識の醸成を図りました。

事業費：2,347千円

(1) 「生誕120年記念 塩谷定好展」

- 寄贈をいただいた写真家・塩谷定好のコレクションを、作家の生誕120周年を記念して小企画展として展観しました
- チラシを作成し、広く周知を行いました
- 会場前のパネルなど展示造作を作成しました
- 昨年1年間の中で注目の展覧会として、新聞にも掲載されました
- 未調査だった塩谷定好資料を複写することができ、作家の研究・調査を深めることができました

展覧会名：「生誕120年 記念塩谷定好展」

会 期：2019年8月23日（金）～11月18日（月）

会 場：島根県立美術館展示室4・5

観覧者数：7,106名

作 品 数：約200点

関連事業：ギャラリートーク

2019年10月6日(日)14:00～ 23名

11月3日（日・祝）14:00～ 11名



チラシ

(2) 安来市の金工家である金田勝造の調査研究と顕彰

- 安来市の金工家、金田勝造とその息子正芳、忠雄の作品を調査研究し、小企画展を開催しました
- 小企画展では金田勝造らの作品に加え、金田勝造が師事した金工家・塩津親次の作品や、民藝運動以降、多大な影響を受けた河井寛次郎や柳宗悦らとの交流を示す資料も紹介しました
- あわせて、金田勝造を紹介する小冊子を作成し、県内の小中高等学校を中心に配布することで、地域の美術・文化の継承を図りました

展覧会名：「金工 金田勝造」

会 期：2020年1月16日（水）～3月16日（月）

会 場：島根県立美術館 展示室5

観覧者数：6,353名

作 品 数：58種88点 資料30点

関連事業：ギャラリートーク

2020年2月1日（土）14：00～ 25名参加

展示品にちなんだ指輪作りワークショップ

2020年2月6日（木）10：30～ 10名参加

2月8日（土）14：00～ 15名参加

作成冊子：「金工 金田勝造」 B5 12頁 2,000部

配 布 先：県内の小学校・中学校・高等学校・養護学校、県西部の図書館・美術館、安来市・出雲市・松江市の公民館など 546件



(5) 子どもの読書活動の促進に関する事業

【対象事業】

- ① おすすめしたいこどものほん事業
- ② 学校図書館活用教育図書整備事業
- ③ 子ども読書活動推進事業

【事業の成果及び事業費】

① おすすめしたいこどものほん

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」に掲載する図書を購入し、市町村図書館等への貸出や巡回展示を実施しました。

事業費：1,620千円

- ・ 推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」（乳幼児向）（小学生向）に掲載する本の選書と購入を行い、県民や図書館、学校等の団体に貸し出しました
- ・ 市町村立図書館、幼稚園、読み聞かせボランティア等の活動に役立てるために、県立図書館地域支援室と西部読書普及センターの2箇所に、リストに掲載された図書を整備し、5市町で巡回展示を実施しました
- ・ 島根県立図書館において、7月から9月の3ヶ月間、「おすすめしたいこどものほん2019」の展示及び貸出を行い、夏休み中の子ども達に利用していただきました

【購入冊数内訳】

島根県立図書館こども室 選書・貸出用 357冊

島根県立図書館地域支援室 貸出・巡回展示用 305冊

島根県西部読書普及センター 巡回展示用 163冊 合計825冊



②学校図書館活用教育図書整備事業

島根県立図書館が、すべての市町村に寄託している「学校図書館活用教育図書」について、内容の古くなった図書や、教科書の改訂で新たに必要となった図書の買換えや補充を行いました。

事業費：437千円

- 各市町村からの要望に応え、17市町村の公共図書館等に、124冊の図書を寄託しました
- 島根県立図書館内にも13冊の図書を受入し、直接来館や市町村の公共図書館を通じて、個人や学校に貸出しできるように整備しました
- 学校での図書館活用教育が一層充実するとともに、県内の公共図書館と学校図書館の連携が深まりました。

購入冊数…137冊

③子ども読書活動推進事業

言葉の力や表現力によって、生徒がお互いに本の魅力を紹介し、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定するビブリオバトルを開催しました。

事業費：126千円

- 島根県内の高等学校から13名の高校生が発表者として参加し、全国高等学校ビブリオバトル2019島根大会を開催しました
- 当日は、発表者それぞれが、読んで面白いと思った本を紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に、観戦者を含む参加者全員の投票で「チャンプ本（最多票を集めた本）」を決定しました
- この大会を通じて、開催趣旨である「人を通して本を知る。本を通して人を知る」というビブリオバトルの理念に基づき、読書活動を推進し言語能力・コミュニケーション能力の向上を図る機会とすることができました
- また、広く県民に観戦者としての参加を呼びかけ、発表者とともに読書の楽しみを共有する場とすることもできました

【開催概要】

日時：令和元年12月14日（土）13:00～16:00

場所：島根大学松江キャンパス

大会参加者：120名（発表者、運営者を含む）

(6) 竹島の領土権の確立に関する事業

【対象事業】

竹島の領土権の確立に関する事業

【事業の成果】

竹島問題の解決に向け、国民世論の啓発を図るため、広報啓発活動等を行いました。

事業費：9,155千円

(1) 研修会等の実施

- ・ 竹島問題を考える講座 年4回
- ・ 絵本「メチのいた島」読み聞かせ

(2) 広報啓発資料等の作成

- ・ 第4期竹島問題研究会中間報告書増刷 1,500部
- ・ 夏休み企画展チラシ（小学校配布用）27,000枚
- ・ 竹島学習リーフレット 30,000部
- ・ 啓発グッズの作成

（内容）シャープペンシル7,200本、クリアファイル5,000枚、缶バッチ4,750個、ステッカー2,800枚、エコバッグ600個

(3) 竹島資料室の展示機能・展示内容の充実

- ・ 出張竹島資料室の開催（6月：安来市、7月：江津市）
- ・ 夏休み企画展示の開催（7月17日～9月2日）
- ・ 特別展示の開催（1月29日～3月30日）
- ・ 竹島資料室、啓発看板のリニューアル

※竹島資料室年間来室者6,665人（過去最高人数）



竹島問題を考える講座



広報啓発資料

(7) 森林の保全及び整備に関する事業

【対象事業】

森林林業体験活動推進事業（県民の森整備費）

【事業の成果及び事業費】

景観維持・安全確保・快適利用のため、県民の森の環境整備等を行いました。

事業費：4,086千円

- 県民参加の森づくり活動の一環として、気軽に参加できる講座を充実させ、県民が森林や自然とふれあう機会を創出し、県民の森林や林業に対する理解を深め、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく県民意識の醸造を図りました。
- 14回の県民の森ふれあい講座を開催し、登山やトレッキング等に延べ275人の参加がありました。
- 森林林業体験活動のフィールドとなる県民の森において、枯損木の除去や遊歩道の整備などの環境整備を行い、景観の維持、訪れた利用者の安全確保と快適利用を図りました。



県民の森ふれあい講座



県民の森 環境整備

(8) 防災対策の推進に関する事業

【対象事業】

地域防災人材育成研修

【事業の成果及び事業費】

地域の防災力向上に向けて、自主防災組織の結成及び活動促進、防災意識向上につながる研修を行いました。

事業費：907千円

県内で11回（雲南市6回、江津市5回）開催しました。

(1) 雲南市三新塔地区

研修概要：地域防災ワークショップ、住民主体による避難行動訓練
（講師：NPO法人ぼうぼうネット山崎隆弘氏）

- 第一回調整会議
日 時：4月9日（火）10：00～12：00
場 所：雲南市役所会議室
参 加 者：雲南市職員
- 第二回調整会議
日 時：6月18日（火）13：30～16：00
場 所：三新塔交流センター
参 加 者：三新塔地区住民
- 訓練地区での避難訓練にむけた研修会
日 時：7月4日（土）19：30～20：30
場 所：三新塔交流センター
参 加 者：三新塔地区住民
- 訓練地区での避難訓練に向けた作戦会議1
日 時：8月20日（火）19：00～21：00
場 所：三新塔交流センター
参 加 者：三新塔地区住民
- 訓練地区での避難訓練に向けた作戦会議2
日 時：9月4日（水）19：00～21：00
場 所：三新塔交流センター
参 加 者：三新塔地区住民
- 住民主導の実働避難訓練及び振り返りミーティング
日 時：11月24日（火）7：00～12：00
場 所：三新塔交流センター

参加者：三新塔地区住民

(2)江津市桜江町川戸地区

研修概要：地域防災ワークショップ、住民主体による避難訓練
(講師：NPO法人ぼうぼうネット山崎隆弘氏)

- 第一回調整会議
日 時：5月17日(金) 19:00~20:30
場 所：江津市桜江総合センター
参加者：川越地区地域役員
- 訓練地区での避難訓練に向けた作戦会議1
日 時：6月6日(水) 19:00~21:00
場 所：江津市桜江総合センター
参加者：川戸地区住民
- 訓練地区での避難訓練に向けた作戦会議2
日 時：6月17日(水) 19:00~21:00
場 所：江津市桜江総合センター
参加者：川戸地区住民
- 訓練地区での避難訓練に向けた作戦会議3
日 時：6月24日(火) 19:00~21:00
場 所：江津市桜江総合センター
参加者：川戸地区住民
- 住民主導の実働避難訓練及び振り返りミーティング
日 時：7月6日(日) 7:00~12:30
場 所：江津市桜江総合センター
参加者：川戸地区住民



住民主導による実働避難訓練
雲南市三新塔地区会場



住民主導による実働避難訓練
江津市川戸地区会場

(9) 結婚・出産・子育ての支援に関する事業

【対象事業】

しまね保育実習等旅費支援事業

【事業の成果及び事業費】

保育士志望の学生の島根県内での就職を促すため、県外の保育士養成施設に在学する学生が県内保育所等で実習する際の旅費の一部を助成しました。

事業費：1,111千円

- 卒業後に島根県内での就職を促すとともに、ひいては子どもを安心して育てることができる環境整備を目的とし、平成29年5月から事業を開始しました
- 主に岡山県、広島県など中国地方を中心に、近畿や九州、東京都にある指定保育士養成施設の学生81名に対し、島根県内の保育所等で実施した保育実習、就業体験及びボランティアにかかる旅費を助成しました
- 旅費を助成した81名のうち、令和2年3月に卒業の学生は42名でした
- そのうち進路先が判明している32名のうち、23名の方が島根県内の保育所等に就職が決定し、現在各保育所等で保育士として活躍されています

＜事業内容＞

- 旅費助成：81名
- 事業啓発用チラシ作成、郵送



啓発用チラシ